

津市立南が丘小学校だより

かがやく未来

2024. 7. 1 NO 20

読書に挑戦しよう！

ユニセフによると世界で学校に通っていない児童は初等教育で2億4400万人、中等教育では6700万人にも上ると報告されています。戦争・紛争に巻き込まれ、親を失うなどして教育どころか日々、生きていくことが最優先という立場に置かれている子どもたちが多くいます。皮肉なことに恵まれた環境にある日本では随分前から活字離れが叫ばれています。

先日、ニュースで子どもたちの読書量が10年前と比べて3分の1になったと伝えていました。夏休み、比較的子どもたちにとって時間のある時期に読書に親んでもらおうと国語の教科書には読書に関わる内容が取り上げられています。

ギリシャの詩人ホメロスの『オデュッセイア』に詠われた古代都市トロイの遺跡が考古学者のインリヒ＝シュリーマンという人によって発掘されたのは1873年。彼は当時の学者たちがまともにとりあげなかった伝説の都市を信念と努力によって発掘という大事業を成し遂げたのです。彼はドイツ北部の貧しい家に生まれました。働きながら学ぶという生活の中で13種類という言語を習得するとともに考古学の道にすすんでいったと言われています。彼の心の中で、輝き続けていたもの、そして考古学の道に引き込ませたもの。それは子どもの頃に読んだ一冊の本であったという話は有名です。幼いシュリーマンが父からの贈り物『子どものための世界歴史』という本を読みながら、伝説の都市トロイを頭に浮かべ「トロイを見てみたい。僕はこの都市を発掘する」と心に決め、ここから生涯をかけた大事業は始まったと言われています。この時、彼は7歳。小学校1年生にあたります。これを考えると「まだまだ小学生だから…」ということは関係ないことが分かります。1冊の本が、人の生涯に影響することがあります。言葉は一見、無力のようですが、実ははかりしれない力を秘めているのです。読む人の想像力に働きかけて、心の深層にまで影響を与えるのです。活字を読み込むには自発・能動の精神を必要とします。読書は受け身では不可能です。読書をすることは考える力を養い、創造性を大いに育みます。いきなり、難しい本を読む必要はありません、自分の興味のある本からでもいいです。子どもたちが読書に親しんでほしい…との願いで多くの保護者・地域の方が読み聞かせや図書室の掲示物づくりに来ていただいています。「本をよむことって楽しいなあ」と感じる児童が増えてほしいと願っています。

